

## 令和8年度志木市教育行政重点施策

本市では、このたび第二次志木市将来ビジョン（第六次志木市総合振興計画）を策定するとともに、志木市教育大綱を改定するなど、令和8年度から新たなステージがスタートします。

このことを踏まえ、教育行政においては、次代を担うたくましい志木っ子と地域を支える市民を育む教育を目指し、関係部門と連携を図りながら新たな課題の実現に向け、次のような施策に取り組んでまいります。

はじめに、令和7年度から、市内全ての中学校区で本格的に導入した、本市の小中一貫教育につきましては、各学園の教職員が小・中学校の垣根を超えて、教科部会や合同研修会を計画的に実施するなど、義務教育9年間の学びをつなげる意識改革をさらに進め、児童生徒同士の交流や地域の特性等を踏まえた学習活動の具現化を進めてまいります。

令和9年度の開校まであと1年に迫った志木第二中学校区義務教育学校「志木の森学園」では、児童生徒の日常的な活動の場となる志木第二小学校校舎と志木第二中学校校舎をつなぐ渡り廊下の整備をはじめ、照明器具のLED化や空調設備を設置、全てのトイレを洋式化するなどの学校快適化事業、前期・後期課程の教職員が一体となって使用する職員室の設置など、必要な改修工事を実施するとともに、一つの教職員組織を最大限に生かした義務教育学校ならではの学校運営についても、引き続き、協議してまいります。

全国的な課題となっている教職員の働き方改革につきましては、市教育委員会並びに学校管理職の重要な責務と捉え、校長会等で各校の取組を共有するとともに、本市の大きな特色である複数・少人数指導のためのスマート教員や乗り入れ指導充実のためのコネクト支援教員、スクールサポートスタッフなどの会計年度任用職員を配置することで、教職員の業務改善や負担軽減を加速し、教職員の心身の健康確保を図ることにより教育活動の質の向上を目指してまいります。

併せて、校務支援システムをクラウド化し、既存の学習系ネットワークと統合することで、ロケーションフリーによるシステム接続を可能とし、教職員の柔軟で効率的な働き方を実現するとともに、子どもたちの個別最適な学び・協働的な学びの実現に向けた学習指導の充実につなげてまいります。

教育相談・就学相談の充実、適応指導教室の運営、特別支援教育支援員の派遣などにより、不安や悩みを抱えている児童生徒・保護者に適切に対応してまいります。

今後も、不登校児童生徒に対する組織的な支援方法を研究するとともに、個別のニーズに応じた多様な学びの場を創出し、「誰一人取り残さない教育」を具現化してまいります。

なお、児童生徒の学力向上や学習意欲向上のためには、日々の授業が重要であることから、指導スキル向上を目的とした教職員研修や全教職員を対象とした授業改善訪問等について、これまで以上に充実させてまいります。

学校部活動の地域展開につきましては、国が新たに策定したガイドラインに基づき、試

行的に地域クラブ活動を開始し、令和10年度を目途に、土日の学校部活動を地域クラブ活動へ展開する取り組みを進めてまいります。

生涯学習推進においては、生涯学習推進指針に基づき、「いつでも・どこでも・だれでも学べるまち」を目指し、乳幼児から高齢者まですべての市民一人ひとりが豊かな人生を送るため、生涯にわたり学び続けることができる環境づくりに努めてまいります。

まず、郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの複合施設の整備につきましては、郷土資料を総合的に保存活用するための拠点である「志木市歴史館」として、令和8年10月にリニューアルオープンいたします。新たな施設においては、本市の歴史や文化を身近に感じることができる展示室や体験スペースを併設し、企画展や体験会を開催することで、より一層の郷土愛の醸成につなげてまいります。

また、令和8年度からスタートする「第四次志木市子ども読書活動推進計画」に基づき、新たに毎月23日を「志木っ子家読（うちどく）デー」と位置付け、家庭での読書を習慣化する取組など、同計画の基本理念である「すべての志木っ子に読書の喜びを」の実現に向けたさまざまな取組により、子どもの読書活動のさらなる推進を図ってまいります。

スポーツ推進においては、秋ヶ瀬スポーツセンター等再整備事業として、秋ヶ瀬スポーツセンターと武道館を複合化し、スポーツ振興はもとより、地域コミュニティの拠点ともなる「秋ヶ瀬スポーツ・コミュニティセンター」の令和9年9月のオープンを目指し、令和8年度は建設工事を引き続き進めてまいります。さらに、令和7年度より試行的に実施している秋ヶ瀬総合運動場の利用者に対する簡易照明設備の貸出について、利用しやすい料金を設定のうえ、本格実施するとともに、秋ヶ瀬運動場施設の利用者に対する駐車場の整備に向けた設計や第3球場の修繕など、「第3期志木市スポーツ推進計画」に基づき、誰もが気軽にスポーツに親しみ、喜びを得られるような環境づくりを進めてまいります。